

## HbA1c の異常波形が疑われた一例

◎前泊 有作<sup>1)</sup>、新里 直子<sup>1)</sup>、仲松 秀美<sup>1)</sup>、金城 海志<sup>1)</sup>、親富祖 晶子<sup>1)</sup>  
 社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院<sup>1)</sup>

【はじめに】異常ヘモグロビン症は日本人の約 3000 人に一人の割合で存在している。現在知られている日本の変異ヘモグロビンは 210 種類以上におよび、その約 69%が、変異ヘモグロビンは検出されるが機能的には全く問題のない遺伝子変異になる。臨床症状がでないため、HPLC 法による HbA1c 測定中に偶然発見されることがある。今回、当院にて HbA1c の測定ができず異常ヘモグロビン症が疑われた症例を経験したため、報告する。

【対象・血液検査】当院健診センターを受診した 40 代女性。臨床症状なし。糖尿病などの既往は見られなかった。血液検査の所見は Hb:16.8g/dL、RBC:4.69×10<sup>6</sup>/μL、Hct:49.6%、MCV:105.8fL、MCH:35.8pg、UN:10.1mg/dL、Cre0.74mg/dL、GLU86mg/dL、GA11.4%

【方法・結果】HA-8182(アークレイ社)による HPLC 法にて HbA1c を測定。重複ピークエラーが出現し、測定結果は出なかった。のちにアークレイ株式会社に患者検体の高分離分析を依頼。酵素法：3.6%、HA-8182:重複ピークあり、HA-8190(F):HbA1c テール異常、HA-8190(V):#C 異常高値、

HA-8180T:重複ピークあり

【考察】アークレイ社による高分離分析クロマトパターンにて、HbA1c コントロールの吸光度と、患者検体の吸光度のピークを比べると、HbA1c のピークとは別に未知のピークが検出された。しかし、その未知のピークの山が小さいため、これが変異ヘモグロビンによるものかは判定できなかった。詳しい分析には遺伝子検査が必要になるが、患者からの同意が得られなかったため、原因の究明には至らなかった。患者には症状の訴えがなかったことから、臨床的に問題のない異常ヘモグロビン症の可能性が疑われる。酵素法による HbA1c は低値傾向がみられるものの、GA や血糖値が基準範囲内であることから、変異ヘモグロビンによる偽低値の可能性が考えられる。

【結語】今回の件で、HbA1c 分析装置では検出されない変異ヘモグロビンの存在を知ることができた。これから同様のことがあった際は、HbA1c の代用としてグリコアルブミンなどの測定を提案したい。

連絡先 098-895-3255 (内線 8496)

## TP 抗体が偽陽性であった 1 症例

◎喜納 裕貴、大城 佑馬<sup>1)</sup>、田中 優磨<sup>1)</sup>、平 大悟<sup>1)</sup>、池間 龍也<sup>1)</sup>  
 沖縄県立宮古病院<sup>1)</sup>

【はじめに】

梅毒感染は近年増加してきており注目を集めている感染症の 1 つである。当院で用いている梅毒検査は RPR 法と TP 抗体検査がある。RPR は感染初期に産生される脂質抗体を検出しているが、生物学的偽陽性を示すことが欠点である。TP 抗体検査は、*Treponema pallidum* に対する抗体検査で特異性の高い検査であるが、ごくまれに非特異反応を示す。今回我々は、他院にて初期梅毒感染疑いで紹介された妊婦が TP 抗体偽陽性と診断された症例を経験したので報告する。

【症例】

30 代女性。他院にて TP 抗体陽性となり初期梅毒感染疑いにて周産期管理目的の為、当院紹介受診となった。

【経過】

当院受診日より 11 週間前の時点にて他院にて実施された TPHA 試験が陽性であった。受診日 7 週間前の TP 抗体検査は 34.3 T.U.で陽性。また、受診日 1 週間前の TP 抗体は 29.5 T.U.で陽性となった為、初期梅毒感染疑いにて当

院へ紹介。受診日に TP 抗体の検査を行ったが当院では 0.0 C.O.I で陰性であった。そこで、偽陽性を疑い主治医に FTA-ABS の提案を行った。後日、FTA-ABS の陰性が確認されたため偽陽性と診断された。また、夫も他院にて TP 抗体を測定されていたが結果は陰性であった。後日、当院にて出産した児の TP 抗体も 0.0 C.O.I であった。

【まとめ】

今回、我々は他院にて初期梅毒感染疑いで紹介された妊婦が TP 抗体偽陽性と診断された症例を経験した。主治医から他院との結果に乖離があると報告を受け、FTA-ABS を提案し結果が陰性であった為、偽陽性と診断できた。今回の症例では性感染症であるため夫婦間の信頼関係を損なう可能性もあった。偽陽性の報告を減らす対策として当院は今後も初回の陽性検体があれば、確認試験を実施する。また定量値が低値を示し医師が偽陽性を疑う際や他院の結果で乖離が疑われる際には、別の方法で再検査を実施するように提案を行っていく。

連絡先：0980-72-3151 (内線：1151)